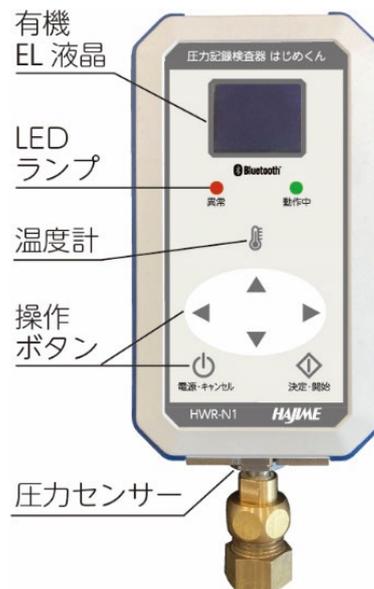


配管用<圧力記録>検査器 はじめくん HWR-N1-1 を用いて既設の給水給湯配管の点検が簡単に実施できます

屋外にあるホーム水栓に検査器をつなぎ、水道メーターの止水栓を止めて、漏れがある場合は水道圧が下がる現象を詳しく観察することで屋外からでも簡単に検査が可能です

- ① 給水側回路と給湯側回路をバイパスすることで、給水系統だけでなく、一回の検査で給湯側も一緒に点検できます
- ② ホーム水栓に接続する場合は、オプションのアダプターが便利です。また、一般の水栓コマは逆止弁機能が作用するため検査には、固定コマを使用するのが望ましいです
- ③ リフォーム等で、設備に手を加える前に、旧来配管の点検に使用することができます。普段から使用していて、十分に馴染んだ住宅用配管の点検向けの検査モードを用意しました



検査モード

判定：PE・PB 管内容量 15L まで

検査モード	試験圧力	待機時間	検査時間	合計時間	判定差圧
既設配管点検	水道常圧のまま	5分	5分	10分	3kPa

※配管内圧力の安定を促すため、待機時間を設け、待機後に検査を自動的に開始

※検査中に配管変形による圧力低下に、漏れによる圧力低下を加えて判定差圧となった場合、漏洩判定

※配管容量の目安 13A: 116m=15L 16A: 73m=15L 20A: 46m=15L

・前提条件の確認

水道メーター止水栓が完全に止水できないと、正確な検査は出来ません

以下の手順で、止水栓のチェックを行ってください

・検査準備（オプションのホーム水栓アダプターを使用した例）

- a. 水道メーター止水栓を閉じる
- b. ホーム水栓を分解し、固定コマに交換し、ホーム水栓を開いておく
- c. 水道メーターのパイロットが回転していなければ、止水栓は正常です
※パイロットが回る場合は、完全に止水できない状態です
これでは検査中に新たな水圧が加わり続けるため、正確な検査になりません
別途、オプションの止水栓セットを水道メーター部に取り付けます
- d. ホーム水栓を閉じる
- e. 水道メーター止水栓を開いて配管に水圧がかかるようにします
- f. ホーム水栓の吐出パイプを外し、ホーム水栓アダプターをバッキンとともに取り付ける（右写真の上、中）
- g. 検査器に付属のオーリングアダプターは本検査では使用しないので外しておく
- h. ホーム水栓をゆっくりと少し開き、空気を抜きながら検査器をホーム水栓アダプターに取り付ける（右写真の下）
- i. ホーム水栓を最大まで開いておく



※ホーム水栓アダプターを使用しない場合は、付属のオーリングアダプターが接続できる1/2サイズのネジを使って接続し、検査できます

・漏洩検査手順

- ① 前ページの検査準備が済んでいる状態から開始
- ② 電源入れ、メニューに進む
- ③ 設定画面で検査番号(任意)を入力する… (a)
- ④ 水圧宅内給水給湯の既築配管点検モードを選択…(b)
- ⑤ 開始ボタンを押すと、<待機中>の画面になり、待機カウントを開始
- ⑥ 待機が終わると自動的に<検査中>画面に変わる
現在圧力のほかに、検査開始からの差圧を表示…(c)
- ⑦ 検査が終わると、結果画面となり、判定結果を、表示します…(d)
- ⑧ 不合格の場合は、トイレのボールタップ周りで漏れる可能性が高いので、トイレの止水栓を閉じた状態にしてから、再検査を行うために、↓ボタンを押して、再検査を実施します
再検査では、待機時間が短縮され通常の検査よりも短時間で結果が表示されます

10/12 15:30
はじめくん HWR-N1
0.00
S/N:123456 kPa
HAJIME

(a)

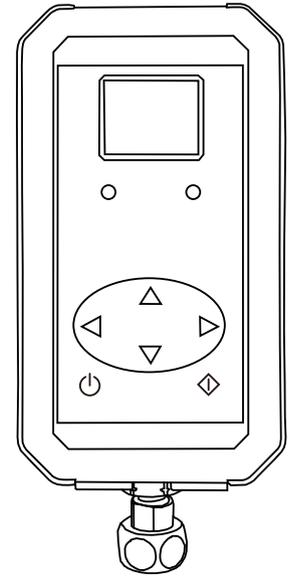
検査番号設定
文字 数値
AA - 0 1 2 3
□数値は自動増分
⌂戻る 選択◀▶決定

(b)

検査番号: AA-0123
水圧既築 水道常圧
待機: 5分 検査: 5分
判定差圧 3.00kPa
⌂戻る 変更▶開始◀

(c)

差圧 -1.15kPa
302.65
<検査中>判定あり
残り 4:30 / 5:00



(d)

◀結果 送信▶
検査終了
漏洩検査合格
データ送信しますか?
⌂電源 OFF 再検査▼

○初回検査の結果表示

「漏洩検査合格」	漏れなしと判定し、検査終了。
「漏可能性／不合格」	検査器周辺の漏れが無いことを確認し、加圧状態のまま、再検査を
「漏れ有り／不合格」	実施します (検査終了3分前以後の検知は、漏れ可能性判定)

○再検査の結果表示

「漏洩検査合格」	漏れなしと判定し、検査終了。 ※1回目は外気温や配管の素性による誤判定と考えられる
「漏可能性／不合格」	漏れがあるので配管の修復後、再度、最初から検査します (検査終了2分前以後の検知は、漏れ可能性判定)
「漏れ有り／不合格」	

- ⑨ データを iPhone・iPad に転送し、現場写真とメール報告 (本体内に蓄積しておき、後ほど転送も可)
- ⑩ 「電源」ボタンを押して電源を切る。次の検査へ進む
※本体メモリーの残量は検査データサイズで変化します(新築竣工検査モードでは最大20件保存可)
メモリーが不足すると、新規検査が出来なくなるので、適宜データ転送をしてください
- ⑪ 検査終了後は、検査器および、接続に使ったオプション部材を取り外してください

・注意事項

検査中に、配管に力が加わると、圧力の変化が起きて、正しい検査が出来ない場合があります
工事に伴って、露出した配管部分に乗る、踏む、養生を動かすなどの影響で圧力が影響を受けることがありますので、検査中は、特に配管に触れないようご注意ください

また、リフォーム工事の関係で、従来の金属配管等が露出する場合がありますが、配管周囲の気温変化の影響を受けやすくなります。なるべく温度が一定となるタイミングで検査を行うことをおすすめします。

温度変化が想定される場合は、設定機能の「温度判定」機能を使って、検査中に一定の温度変化を検知した場合は、その検査エラーとなりますので、再度検査をやり直してください